

「丘」に見る古径作品の特長



「丘」(小林古径記念美術館蔵)

文化勲章を受章した翌年の作品。円熟期の美しい描線と清澄な色彩が、高い気品を感じさせます。



① 髪の毛の一本一本、細部にわたって丁寧に描かれていることが見て取れる。



② 頬の赤みが何とも美しい。薄く何度も重ねて塗ることで、絶妙な色合いが醸し出されている。



③ この一本の線も、非常に時間をかけて一筆で描かれている。ゆがみなく、太さも変わらずにこれだけ美しい描線が描けるのは、古径をおいて他にいない。

逆境に負けず、画家として大成
小林古径は、伝統的な日本画に写実的で近代的な要素を取り入れ、「新古典主義」と呼ばれる新たな画風を確立した日本画の巨匠です。
幼くして家族を失いながらも、逆境に負けず大成したその道のりは、並大抵の努力では成し得なかったでしょう。作品制作に対する真摯な姿勢と、心から絵を愛していたからこそその功績でしょうね。

彼を一言で言い表すとしたら、「修行僧」という言葉がぴったりだと思います。寡黙で内向的な性格であった古径は、一度描き上げた作品でも満足がいくまで描き直したり、晩年には、病気を患いながらも描くことを止めなかつたりと、終生、絵に対して真剣に向き合っていました。

皆さんは、筆を使って真っ直ぐな線を描くことができますか。それもゆがみなく、太さも変えずに。「線の求道者」ともいわれる古径は、非常に丁寧に美しい線を描きました。自身のサインをかくのに5分もかかったというエピソードがあるほど、線に対するこだわりは強いものでした。

また、淡く清らかな色調は、描かれたものの質感や匂い立つようにさえ感じられる古径の作品をさらに引き立たせています。
古径の作品は、派手さはありませんが、見るほどに「味わい」が感じられ、美しく気品があります。ぜひ古径記念美術館で、このまちに生まれた巨匠の名作を味わってください。

近代日本画の名作を味わう

—— 小林古径 人と作品 ——



小林古径記念美術館 笹川 修一 統括学芸員

「特集」小林古径 生誕一四〇年 古径が生まれた、このまちで

上越市に生まれ、激動の昭和を駆け抜け、新潟県出身者で初めて「文化勲章」を受章した日本画家・小林古径をご存知ですか。今年、古径生誕一四〇年。
高田城址公園に行む「小林古径記念美術館」で彼が遺した名作の数々に触れ、かつての住まい「小林古径邸」を訪れてみませんか。

古径邸から庭園を望む

西暦	年齢	出来事
1883	0歳	2月11日、現・上越市大町に生まれる。(本名・茂)
1886	3歳	新潟市へ転居。
1887	4歳	母・ユウ死去。
1894	11歳	山田於菟三郎に日本画の手ほどきを受ける。
1895	12歳	兄・弘死去。翌年、父株死去。
1899	16歳	上京し、梶田半古塾に入門。「古径」の画号をもらう。
1907	24歳	半古塾の塾頭となる。
1912	29歳	三好マスと結婚。
1914	31歳	日本美術院同人に推挙。
1920	37歳	現・東京都大田区南馬込の農家の家を画室として使用。
1922	39歳	西洋美術の研究のため、日本美術院留学生として渡欧。画室に隣接して住居を新築。
1934	51歳	東京美術学校教授となる。
1944	61歳	文化勲章を受章。
1950	68歳	文化功労者となる。
1951	68歳	4月3日死去。
1957	74歳	市内初の美術館として、上越市立総合博物館で「小林古径展」を開催。
1979	-	古径邸移築復原事業開始。
1996	-	古径邸一般公開。小林古径記念美術館が総合博物館と施設を共有して開館。
2001	-	古径邸が国登録有形文化財に登録される。
2005	-	小林古径記念美術館が独立して開館。
2020	-	-



小林古径 (1883-1957)

小林古径 略歴と美術館のあゆみ



小林古径記念美術館
友の会
会長 植木 哲夫 さん
☎025-523-8680

贅沢な”とき“を過ごす

市民の宝、古径記念美術館で
非日常的な体験を

「古径の作品に触れ、その素晴らしさを多くの人と共有したい」という思いで、平成19年から活動しています。
美術館には、古径のほかにもさまざまな作品が展示されています。ゆったりと芸術作品に向き合う時間は、忙しい現代人の感性を刺激

し、心を豊かにしてくれま
す。「美術館は敷居が高いな」と感じている人も、気軽に訪れてみてください。
友の会で、学芸員さんなどによる美術講座や近隣地域の美術館巡りなど、一緒に楽しみませんか。



来館者の声



古川 幸 さん(右)、千花子 さん

子どもと一緒に巡るのにちょうど良い広さなので、散歩の途中に寄ることもあります。展示だけでなく、子ども向けのワークショップがあるのも良いですね。



石黒 友佳子 さん

昨年、高校生キュレータープロジェクトに参加しました。美術館は、あれこれ難しく考えなくても、自分が「好きだな」と感じる作品を探すだけでも楽しめますね。



北川 寛 さん、のり子 さん

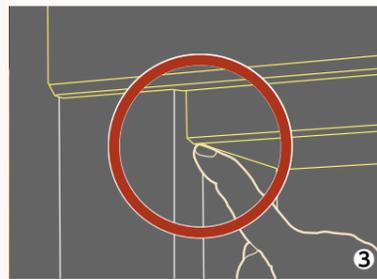
東京から観光に来ました。上越は市民の皆さんが文化を大切にしていることがよく伝わります。全国的にも有名な古径さんのことを、これからも語り継いでいってほしいですね。

ミュージアム
ファンクラブ
保坂 香織 さん
☎025-527-3270



お気に入りのカフェに行く気分で気軽に美術館に立ち寄りたかった。この美術館がきっかけで、古径のことや文芸都市として歩んできた上越市の歴史・文化を学びました。若い人たちにも自分のまちの魅力を語れるようになってほしいと思います、美術館に足を運ぶきっかけづくり(今風に言えば美術館の「推し活」)に取り組んでいます。

私は四季の移ろいを感じられる二ノ丸ホールがお気に入りです、年間パスポートを使ってよく立ち寄っています。
皆さんも美術館や古径邸の素敵な空間で、思い思いの時間を過ごしてみてください。



アトリ工 雁木
歴史的建造物保存修復研究室
主宰 清水 恵一 さん



①小林古径邸(右)と画室(左) ②③柱と鴨居との接合部。「面中(めんなか)仕事」と呼ばれる施工方法で、鴨居は、面取りされた柱の角度がついた部分にぴったりと合うように加工され、接合されている
④緩やかにアーチを描く「むくり屋根」は、謙虚さや奥ゆかしさを表現している ⑤障子の組子も一本一本が全て面取りされている。近くで見ると、交差する部分は場所によって縦横の接合方法が異なっていることが分かる

近代数寄屋の傑作を味わう

— 小林古径邸 —

「私が好きだという家を、つくってください」

古径は新しく自宅を建てるに当たり、建築家・吉田五十八に一言、こう注文しました。なんとも難しい注文ですよね。

吉田はこれを受けて、当時すでに画家として名を成していた古径の人柄や作品を研究します。どのような家が好まれるだろうかと思案を重ね、お城を手掛けたこともある京都の宮大工・岡村仁三、建具の名工・佐野開三と共に、江戸時代からの古い数寄屋造りを土台としながらも、現代的な要素を積極的に取り入れた、美しい近代数寄屋建築を造り上げました。

期待にたがわぬ出来栄に、古径はこの家を大層気に入って、完成後もすぐには引っ越さず、半年ほど眺めて楽しんでいたそうです。ちなみに、吉田も後に文化勲章を受章しています。造った人と住んだ人がいずれも文化勲章を受章

者というのは、すごいことだと思いますか。

「古径さん家」においでください

国の登録有形文化財である古径邸は、随所に当時の高い施工技術(上写真)を見て取る事ができます。全国から多くの建築関係者が視察に訪れているほか、建築関係の雑誌などにも幾度となく取り上げられています。

私は古径邸の移築・復原に関わらせていただいたのですが、実は、上越市への移築が決まった直後に、東京都からも元の所有者に対して「譲ってほしい」と打診があったそうです。縁あって古径の故郷である上越市に移築・復原できたことに、運命的なものを感じますね。
市民の皆さんには、そんな古径邸にもっと気軽に足を運んでいただき、縁側や2階から庭を眺めながら、この家で暮らしていた古径を身近に感じてもらえたらうれしいです。

ところ…本城町7・1 (高田城址公園内)
 開館…午前9時～午後5時
 休館…月曜日(祝日の場合は翌日)
 問合せ…☎025・523・8680

企画展「小林古径の世界」 10月21日(土)▶11月19日(日)

古径生誕140年を記念して、古径が展覧会に出
 品した作品を中心に、初期から晩年に至る作品
 や関連資料を展示します。

▶入館料 (企画展会期中)
 一般700円、小・中高生350円
 ※幼児、市内小・中学生は無料



牡丹
 (小林古径記念美術館蔵)



極楽井
 (東京国立近代美術館蔵)



芥子
 (東京国立博物館蔵)
 Image : TNM Image Archives



竹取物語より「昇天」
 (京都国立近代美術館蔵)

企画展「小林古径の世界」関連イベント

ワークショップ「オリジナル絵巻をつくろう！」

- ▶とき…10月28日(土) 午後1時30分～3時30分
- ▶講師…洞谷 亜里佐さん(日本画家、日本美術院院友)
- ▶対象…小学3～6年生 ▶定員…10人(申込順)
- ▶料金…500円

庭園紅葉ライトアップ

- ▶とき…11月11日(土)～19日(日)
- 日没～午後7時
- ※期間中は午後7時まで開館延長



学芸員によるスライドトーク「小林古径の生涯と作品」

- ▶とき…11月3日(金)・(祝) 午後1時30分～
- ▶講師…笹川 修一(小林古径記念美術館統括学芸員)
- ▶定員…30人(申込順) ▶料金…無料(入館料別途)

※要申し込みイベントは、9月15日(金)以降にメール(kokei-koza@city.joetsu.lg.jp)または電話で申し込み



企画展の
 見どころを
 ご紹介します！

伊藤舞実 学芸員

今回の展覧会では、全国から古径の代表作が集
 まります。生涯を通して描いた作品と、名作を生み
 出した画室、そして古径が過ごした住まいを一度
 に味わえるのは、古径の故郷・上越市ならではです。
 ちなみに、私の一押し作品は「犬」です。2匹
 の犬を飼っていた古径の日常を切り取った作品で
 す。ほのぼのとした気持ちになれるこちらの作品
 もお楽しみに！



犬
 (歌舞伎座蔵)



二ノ丸ホールから古径邸を望む

素敵な芸術作品をじっくりと鑑賞する。
 開放感ある二ノ丸ホールで子どもと過ごす。
 縁側で庭を眺めながら、ひとり物思いに耽ける――。
 古径が生まれたこのまちの美術館で、
 あなただけの時間を過ごしてみませんか。
 美術館で過ごすひとときは、
 日々忙しく過ごしているあなたの心に
 “うるおい”をもたらしてくれるはずですよ。
 あなたのご来館を、心よりお待ちしております。